（？日台のきずな確認　アジア人閉幕（信濃毎日新聞」-（？）2000.11.01

「現場の人間としては誠不本意で残念だ。執行部配慮してくれないと現場やりきれない」―。同日代議士会で、同委理事の々木秀典党法務部会長は行部にこうかみついた。佐々木氏らは同部会での論を経て、法案に盛り込れた検察官関与の強化なめてきた。しかし、ネクスト・キャビネット（次の内閣）などは「三十点でも零点よりはいい」（鳩山由紀夫代表）として、同党の修正案が否決された場合は与党案に賛成する方針を決めた。

これに対し、佐々木氏らは「少年法のことを何も知らない人が賛成を決めて鳩山代表らの説得も不誠に終わり、結局、同日の委員会採決の約十五分前に日野市朗氏ら委員三人が他の議員に差し替えられ、佐々木氏も退席した。また、衆院本会議でも十人以上が「手続きがおかしい」ことなどを理由に棄権や反対に回る事態となった。

思います」と評価。

その上で「社会状況に合わせて法律を改正することは重要なことだと思いますし、少年法も例外ではありません」と指摘し、「審判の傍聴など被害者側の権利を充実させるような改正を引き続き考慮してほしい」と要望している。

被害者支援こそ急務

元家裁裁判官の平湯真人弁護士の話　わずかな審議の中でさえ、与党は厳罰化の犯罪抑止効果がたいしてないと認めざるを得なくなり、代わりに「規範意識の強化」を持ち出した。しかし、現在の子供の未熟さを考えると、社会のルールを身に付けさせるにはどうしたらいいかを議論した方がいい。被害者感情が強調されるが「国が支援しない状態では厳罰を望むと言うしかない」という被害者もいた。被害者支援の総合立法を急ぐ必要がある。議論不足なのに採決する姿勢はいいかげんで、もっと時間をかけて審議を尽くすべきだ。

わるかどうかは運用にかかっている。少なくとも一般事件は従来通り、非行少年の教育を重視した運用になるだろう。少年院仮退院者の再犯率は二〇％程度で、一定の教育機能を果たしてきた。にもかかわらず、少年院の現場などと十分調整することなしに、刑罰を重視する方向に改正を急ぐのは問題だ。

田中知事

（郵便局を指定した）（説明した。）

信越郵政局によると、全国では東京、大阪、三重など十三都府県、県内でも百三町村が郵便局を収納代理郵便官署に指定している。県内の郵便局のうち指定が可能な貯金業務を行っているのは六百六十三局。田中知事は県建設業協会（長野市）も訪問し、岡沢

「公共事業が減るのではと業界は不安に思っている」とし、公共事業への基本姿勢を質問。知事は「公共事業をゼロにするとは一度も言っていない。現場でいろいろな人から話を聞いて判断する。建設や土木に携わる皆さんの生活を壊すつもりは毛頭ない」と答えた。

土屋氏は「擁立の話はもともと、県医師会役員からあった。政治団体の支援が得られない以上、現時点では参院選への出馬は考えられない」と話している。

代表者会議で次期参院選の候補問題を論議したのは初めて。鈴木委員長は「昨年の参院県区補選、先の知事選と、自民党の推した候補が相次いで敗れた。県医師連盟が一丸となって『組織内候補』を立てても、有権者に支持される状況にない」とし、了承された。

このほか、県農協やJR東日本長野支社、日銀松本支店など、長野、松本両市内の国出先機関や業界団体、企業など計二十三カ所を回った。

知事24時

午前6時26分　東京発の新幹線で長野市へ。

9時25分　県庁正面玄関。知事公用車に乗る前、社会見学で訪れた白馬北小の児童たちに囲まれ、「あいさつに行かなきゃいけないから、ゆっくり話せません。また白馬に行くからね」。

9時48分　県中小企業団体中央会。来秋に長野市内で開催する中小企業団体全国大会のパンフレットを受け取り、二つ折りに。「ごめんなさい。折ってはいけなかったかな」。幹部は笑って「大丈夫です」。

10時11分　共産党県委員会で、「養護学校の施設が劣悪と聞いている。そこを直すのも公共事業だと思う」。党幹部は「私たちもそう思っている」。会談後、居合わせた幹部らが拍手で知事を送り出した。

11時29分　JR東日本長野支社。JR側の希望で報道陣をシャットアウトして野崎哲夫支社長と約十分会談。信越郵政局へ。局長室で「公開してもらって感謝します。公共性が高い企業にも関わらず、（会談を）公開しないところがあるなら、公共性がなにかということを真摯（しんし）に考えてほしい」とJRの対応を暗に批判。

午後零時20分　県庁に戻り記者会見。JRとの会談について、「災害以外の理由で起きるダイヤ混乱について、公共性の高い組織として当たり前の対処をお願いしたいと申し上げた」。知事室で一階食堂から取り寄せた昼定食の昼食。

1時40分　県庁を出発。長野労働局の後、県農協へ。役員ら十七人と会談。県経済連と全農の合併について、「メリット、デメリットを教えてほしい」。

2時55分　県社会福祉協議会。湯本安正会長から体を気遣われて「寝る時間もないもので自分で律しないと」。出口で待っていた女性五人が「体を大切にして」と激励。長野道で松本市へ。

4時21分　予定より小一時間遅れて信大に到着。発地雅夫副学長らに「私の父も昔ここに通っていた。たいへん懐かしい」

同39分　日銀松本支店。大杉和人支店長が定期的に県の景気動向を説明したいとの提案に「ぜひお願いしたい」。名刺に携帯電話の番号を記して渡す。

5時6分　滝沢徹松本電鉄社長から同社バスのミニカーなどを受け取る。「長野県は観光の県であり、アルピコグループの役割は大切。県も協力します」。

同49分　陸上自衛隊松本駐屯地で、「県民の命を守ることが私の責任。自衛隊と県警や県庁との連絡網を再整備する」。長野銀行本店の後、長野市へ。

7時45分　長野市内のホテルに到着。「県内の多くの場所に逸材がいっぱい。各地方事務所の一角に数日間机を借り、地域の皆さんとお目にかかりたい」

日台のきずな」確認

アジア・フォーラム閉幕

松本

日本と台湾の学者、財界らでつくる「アジア・オアン・フォーラム」の第十二回松本会議は三十一日、松本市内のホテルなどで閉会式や特別シンポジウムなどを行い、閉幕した。閉会あいさつで、同市出身でフォーラム世話人代表の中嶋嶺雄・東京外大学長は、李登輝・前台湾総統の来日が実現しなかった点に触れ「李博士の出席を実現すべく、しばしば日本政府首脳と交渉した。大変残念で遺憾」と話した。

同フォーラムが今回の松本会議で終了となるのを受け、閉会式後に会場を移して特別シンポジウム「日本と台湾の絆（きずな）」を開催した。

パネリストの日下公人・多摩大大学院教授は「台湾と楽しくてやめられないという場面もあった」とエピソードを披露。台湾側の蕭濂松・中国信託商業銀行会長は「互いに留学生を増やし、きずなを強くしていきたい」と述べた。

フォーラム12年の歴史を振り返った特別シンポジウム＝松本市ザ・ハーモニーホール

パネリストの日下公人・多摩大大学院教授は「台湾で李登輝さんにお会いしたとき、日本語で話し始めるとき、日本語で話し始める

集英社
○表示価格は本体価格です。別途消費税が加算されます。
ボスきみ
第一歩
第二
第三
集も